

平成18年度第4回中原区区民会議

日時 平成19年3月14日（水）14：00～

場所 中原区役所5階 502会議室

平成18年度第4回中原区区民会議会議録

1 開催日時 平成19年3月14日(水) 午後2時00分～午後4時00分

2 開催場所 中原区役所5階502会議室

3 出席者

(1) 委員 17名

生富公明 尾澤良二 小須田和昭 佐野愛子 鈴木眞智子 高島厚子 竹井斎

芳賀誠 原良三 東田乗治 藤枝重之 松本玲子 水品美香 三竹和子

宮本良彦 横川郁子 吉房正三

(2) 参与 6名

市議会議員：市古映美 立野千秋 長瀬政義 原修一 東正則

松原成文

県議会議員：田島信二

(3) 事務局

木場田区長 中橋副区長 阿部総務企画課長 関総務企画課主幹

その他関係部課長及び職員

4 会議公開

5 傍聴人 11名

6 報道 1社

午後 2 時00分 開 会

1 開会

司会 ただいまから平成18年度第4回中原区区民会議を開催いたします。

なお、内藤委員、仁上委員につきましては、本日欠席とのご連絡をいただいております。また、何名かの参与さん等につきましても、ちょっと遅刻されるというようなご連絡もいただいておりますが、お時間になりましたので開会させていただきます。

それでは、開会に先立ちまして、中原区長の木場田よりごあいさつ申し上げます。

区長 皆様こんにちは。きょうは第4回目の区民会議ということで、今年度スタートいたしました区民会議の今年度の最後の区民会議でございます。お忙しい中お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

きょうは皆様からのご要望といいますか、運営会議でもご検討いただいて、この間、3回目までに討議をしてきました3つのテーマ、1回目は「地域で支える高齢社会～高齢者の健やかな生活を地域でどう支えるか～」、2回目は「地域の安全・安心をどう守るか～子どもの見守り活動を中心に～」、それから先日開催しました「地域の中の商店街～地域と商店街の新たな連携を考える～」と、この3つのテーマで今年度ご検討いただき、また検討の成果を地域の中で実践をしていただいていたまいりましたが、改めてその後の活動の地域での広がりやを踏まえて、今後さらにこの3つのテーマを地域の中で解決していくためにどういうことをやっていかなければいけないかをご検討いただくというのが今回のテーマでございます。

それから、もう一つは、先ほど申し上げましたように、今年度の最後ということで、区民会議の委員の皆様は団体推薦の方で、団体の代表がかわるとどうなるかというのはその団体にお任せをしたいと思います。基本的には2年の任期でございますので、残る次年度に向けてこの区民会議をどのように進めていくかについてもご検討をいただくというのがきょうの会議の内容でございます。

既にお送りしてあります報告書のひな型みたいなものでございますが、この内容は、当日の報告の内容、それから当日検討していただいた、そのときに出された主な意見、提案ということ、それからきょうの討議を行うに当たって、各委員の皆さんにその後の地域でのテーマに関する活動はどのような形で推進してこられ、そしてどのようなことをお感じになっているかということをお知らせアンケートでお寄せいただいておりますので、その内容を盛り込んでございます。また、行政は行政として、この会議での議論を踏まえて、行政としての取り組みについても触れてございますので、そのような内容についてきょうご検討をいただければと思います。

それから、年度の終わりでございますので、検討した内容、きょうご議論いただいた内容も含めて、地域での活動をどのように委員の皆様がやってこられたかということも含め

て、市長、区長あてにその結果報告をいただくことになっております。それについては、きょうのベースのものはこの間の3回のご検討と、それから先ほど申し上げたアンケートの内容を盛り込んでございますので、改めてきょうご意見をいただいて、それを含めて、できれば年度末まで、3月中に市長、区長に皆さんの方から直接お渡しいただくということをやっていたらと考えております。

お忙しいところではございますが、本日もどうぞよろしく願いいたします。

司会 なお、本日の会議につきましては、会議公開条例に基づき公開となっております。

また、本日は傍聴の方もお見えになっていることをご報告申し上げます。

それでは、初めに資料の確認をいたしたいと思っておりますので、事務局、お願いします。

事務局 それでは、お手元にお配りしております資料について確認をお願いしたいと思います。

まず、次第がございます。その次です。別添1ということで席次表がございます。別添2で委員さんの名簿がございます。

次に、資料ということで冊子になっているものが1冊あるかと思っております。

なお、そのほかに配付資料として、「平成19(2007)年度 施政方針」と「平成19年度川崎市予算案について」と、あと、桜まつりについてと水辺の楽校についてというパンフレットもあわせてお配りしてございますので、もし不足等がございましたら事務局の方までご連絡いただければと思います。以上でございます。

司会 それでは、ここからの進行につきましては、規定に従いまして委員長にさせていただくことになっておりますので、横川委員長、よろしくお願いいたします。

横川委員長 皆様、こんにちは。大変春らしくはなつてまいりましたけれども、朝晩の風が冷たくお風邪を召している方も多うございますので、きょうは議員の方たちが少なく大変心細く寂しく存じますが、私たちだけで頑張つてやっていきたいと思っております。

2 会議録確認委員の選任

横川委員長 ただいまから始めさせていただきます。次第に従いまして議事を進めたいと思っておりますが、会議録の確認の委員の選任を例のごとく行いますが、恐縮でございますが、私から指名させていただきます。

芳賀委員と東田委員をお願いしたいと存じますが、皆様いかがでございましょうか。

〔拍手〕

横川委員長 では、そのようにさせていただきます。異議がなければ次に進ませていただきます。

3 議題

横川委員長 今回の議題は、「平成18年度の区民会議を振り返って～地域での取り組み報

告と意見交換～」ということで、今年度議論いたしました課題につきまして、地域での広がりや取り組み状況、あるいは感想などをいただき、議論をさらに深めてまいりたいと考えております。

なお、ご意見はそれぞれの課題ごとに伺ってまいります。また、その際、いただいたご意見などを踏まえて、アンケートなどもいただいておりますので、区民会議の報告書を取りまとめたいと考えております。

それでは、第1回目の課題でございました「地域で支える高齢社会～高齢者の健やかな生活を地域でどう支えるか～」についてご意見をちょうだいしたいと存じますが、初めに事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは、説明をいたしたいと思っております。

まず、この報告書案でございますが、先ほど区長からお話ございましたように、過去3回におけます区民会議での議論、あるいは先日ご協力いただきました委員の皆様からのアンケート、あと3月6日に開催いたしました運営部会での意見をもとにして取りまとめたものでございます。

それでは、第1回の区民会議についてご説明をしたいと思っておりますが、まず最初、報告書の案なんですけれども、第1章から第3章までは、それぞれ各会議で出されました意見や提案、あるいは会議後の地域での広がりについて掲げてございますが、これらをまとめたものが第4章となっておりますので、報告書案の21ページをお開きいただきたいと存じます。

それでは、第1回の会議では、「地域で支える高齢社会～高齢者の健やかな生活を地域でどう支えるか～」といったことについてご議論をいただいたところでございます。

まず、委員の皆様からのご提案として、「高齢になってもできるだけ自立して生活できるよう、そのために近隣との交流をもっと深くすることを考えたい」、1つ飛ばしまして、「子育てサロンとすこやか活動を合体して、地域の家族となるよう、高齢者と保護者、子どもとの触れ合いの場をつくったらどうか」、その下でございますが、「高齢者のことについて知らないお母さんがたくさんいるので、もっと知ってもらえる機会ができればいいと思う」といったような提案がなされました。

これらの提案に基づいて、地域では、まず「丸子地区では高齢者を対象者にした丸子地区すこやか会を立ち上げ、丸子多摩川老人いこいの家の開所をきっかけに、丸子地区全体で取り組みを始めた」とか、2つ下に参りまして「小杉第1・2地区社会福祉協議会合同で、町会、民生委員、老人クラブ、ボランティア団体などが連携し、わたしの町のすこやか活動推進委員会の立ち上げについて検討を始めた」とか、22ページに参りまして、上から2つ目の「大戸地区の子育てサロンでは、地域の引きこもりがちなお年寄りに声をかけ、子育てサロンの案内やスタッフとして参加してもらい、ボランティア活動を通して元気になってもらった」などの活動が進められているところでございます。

また、行政といたしましては、「わたしたちの町のすこやか活動推進委員会の趣旨を町内会、老人クラブ、地区民生委員・児童委員協議会、ボランティア活動団体などに説明し、啓発活動を行った」とか、4つ下に参りまして、「区民を対象に、介護予防への関心を高め、保健福祉センターが実施する各種介護予防事業に積極的に参加し、自身の介護予防に努めることができる人の育成を始めた。意識や知識を高め、介護予防活動を行う自主グループのボランティアとして活動できる人の育成をめざしている」とか、1つ下に参りまして、「中原区老人クラブの健康づくり活動、地域づくり活動に職員を派遣し、支援を行った」といったような取り組みがなされているところでございます。

以上簡単ではございますが、1回目の説明とさせていただきたいと思えます。

横川委員長 ご説明は以上のとおりでございますが、それでは、ご発言をお願いし、皆様の今まで言いたかったけれども残してしまっただけというようなことがございましたらちょうだいしたいと思います。その都度その都度きちっと私たちはくさびを刺すように解決してきましたから、今特にといってもないかもしれませんが、よくお考えくださいますと、どうぞ。

宮本委員 宮本と申します。私は地域ではなくて労働組合の代表でございまして、地域活動そのものには余り参加してございせんが、ちょっと確認なんです、いろいろな老人の方がいらっしゃいますけれども、老人という方がどこにいらっしゃるかというのは、各町会なりそれぞれで本当におわかりになっているところ、いろいろなところに声をかけているかどうかをちょっと……。また、今、個人情報のいろいろな問題がございまして、行政の方ではそういったところまで出せないところがあるかと思えますが、ことし60歳になりました、65歳になりましたといっても、働いている人と家にずっといる人といろいろあると思えますが、そういった方々にいろいろな声かけをする機会がどのくらい町会であるのか、また行政ではあるのか教えていただければと思えます。

藤枝副委員長 丸子の例でいいますと、今、個人情報がいよいよ問題で、はっきり申し上げて一番弱者というのはひとり暮らしの老人ですね。そういう方に関しては、町会長、副会長さんは、民生委員さんが調べていただいて全部把握しております。ほかの地区はわかりません。民生委員で一番偉い方、三竹さんいかがですか。

三竹委員 ただいま宮本委員さんから65歳になられた人というのがつかみにくいでしょうというお話がありましたが、川崎市では大変勇気を持って、今個人情報の問題がございまして、私たち民生委員には65歳になりました方の名簿が参ります。これは横浜市さんあたりから大変うらやましがられているところです。それで、必ず実態調査をするわけです。65歳になられた方のお宅を訪問して実態をつかんでおります。ですから、どこに65歳になった人がいるかということは、本当に私たちはつかむことができます。その点は川崎市は大変幸いだと思っております。ただ、その情報をどのように管理するかは、私たちが心してやっております。

宮本委員 今は多分それでいいと思いますが、またそのうち、今の若い世代が65歳になったとき、またぐちゅぐちゅいろいろ言うてくるのではないかと思います、その間に条例とか個人情報関係も変わってくる可能性があります。ぜひそういう名簿をしっかりと管理していただいて、だれがどこに住んでいるかがちゃんとわかっていないと、いろいろな取り組みでいいものがあってもその紹介もできないし、そこに参画することもできないわけです。ただつくただけでうまくいかないと思いますので、ぜひその点、市もしくは区を含めて一緒にみんなでやっていければと思います。よろしく願いいたします。

横川委員長 65歳といっても、65歳になったからすぐお祝いをいただけるというわけではございませんよ。77歳にならないと老人としてのお祝いは来ませんから。その辺もよく覚えておいてください。よろしいですか。

ほかにございますでしょうか。

吉房委員 まず、3回にわたりまして区民会議をやってきたわけですが、私は、この3回についての私なりの意見をちょっと述べたいと思っています。

まず一番最初にやりました地域での高齢社会、次に地域の安全・安心を守る、次に地域の中の商店街の3つをやったんですが、これは全部すべて関連することです。実は先日も私どもの社協の方で、福祉の心をともに学びましょうということを総合婦人会館でやりました。そのときに、ボランティアを募集しているということだったんですが、今各町内会、中原77町会、各地区の町内会はすべて高齢化しておりまして、なかなか世代交代ができない。そういうことで、ボランティアをやる人を育てて、つなごうじゃないかということなんですが、実は今中原区はこの3つの議題に全部関連することがあります。高齢化しちゃいまして世代交代ができないわけです。安全・安心、まちづくりも、また高齢者すこやか運動でも、商店街活性化ということでも、やはり若い人が集って、その中で一緒に働いてもらわないとなかなかこれは成功できないなということで、私はきょうは意見を述べたいということなんです。

今、1947年、1948年、1949年、1950年生まれの団塊の人が定年になって第二の人生を送っていくんですが、中原区では5,787名の男性、女性が5,063名、合計1万850名いるんです。この団塊の世代の人たちを地域に呼び込んでいろいろ手伝ってもらおうということでは、我々の町会の方々、また商連だとか社協だとか、いろいろありますけれども、なかなか集まらない。

もう一つは、できれば区の方で地域へのデビュー支援ということで窓口をつくってもらえれば、そういう方々でも地域で働いてみようかというようなことになってくるのではないかと私は思っているんです。そんなことで、1つは、区役所かなんかでシニアの相談窓口というのをつくっていただいて、そこにボランティアの人を置いて、そういう人が来ましたら相談をして、こういうところで働いてもらえればと。そういう窓口ができれば、若い人が地域に来ていろいろ活動してくれるのではないかと私は考えております。以上で

す。よろしくお願ひいたします。

横川委員長 それでは、ただいまのことは区の方への要望でございますね。では、区長様、ご要望が出ましたけれども、そのことにつきましてはいかがでございますでしょうか。

区長 私も団塊の世代の一番最後の方にはいるんですが、この問題は今おっしゃったとおりでございまして、団塊の世代が大量にことしから職場を離れて、地域ないし家庭でごやっかいにならなければいけない、結婚していれば相手との関係も改めて再構築していかなければいけないということで大変厳しいわけですが、同時に、地域の中に入っていかねばいけないということになります。男性が地域の中で本当に自由に生きることができるのかということが、サラリーマンにとっては非常に大きな問題だということと、片方では、今おっしゃったように地域の方もそういう人材を求めているということでございまして、これをうまく結びつける役割を区役所が果たしていかなければいけないというのはそのとおりだと思います。市としてもそういうことを考えておりまして、今、シニアの人たちの蓄積された能力をどういうふうに地域の中で生かしていくかということの取り組みを進めておりますので、こういう動きと一緒に、区役所でも取り組んでいきたいと思っております。

とりあえず今考えているのは、前にもお話ししたと思ひますけれども、市民活動の支援サイトをつくりたいということで、既に準備をしております。これは幅広く文化活動をやっている団体から、もちろん町内会、自治会活動をやっている団体まで含めて、サイト上で各団体の活動状況が見られるものをつくりたいと思っております。募集しましたところ、今、300団体ぐらいが登録をしたいということでございまして。この運営についても、例えば竹井さんが委員長をやっておられるまちづくり推進委員会というのがございまして、もともとこの委員会が市民活動をやっている人たちの中間支援組織として活動をしていきたいということがございまして、その委員会とも協議をしながら、この支援サイトの運営を考えていきたいと思っております。そういう実際に具体的に活動しておられる人たちのサイト上でのたまり場をつくり、かつ場所的にもどこか拠点をつくって、そこに行くと、いろいろな人がどういう地域でどういうことをやっているかというのをわかるようにする。とりあえず入り口、垣根の低いところから入って地域の活動につなげていくというような役割を区役所としてもやっていきたいと考えております。以上です。

横川委員長 ありがとうございます。吉房様、よろしいですか。

吉房委員 はい。

三竹委員 先ほど一言落ちましたが、65歳以上のひとり暮らし、高齢者世帯でございます。65歳になった人全部では大変ですので、そういうことでございまして。ほとんどが元気な方ですし、現役の方も多いです。それで、まだまだそういうのは関係ありませんと怒られる場合も結構あるんですね。そういうときは速やかに失礼するというふうにして、でも、一応地域にそういう方がいらっしゃるといふことは把握いたします。

松本委員 松本と申します。今、PTAでお父様方がおやじの会をつくったりして、若いときから地域に男性がかかわるという活動もしております。それからあと、水辺の楽校とか、地域でそれぞれ行っているボランティア、また地域教育会議なんかにも地域の男性が入っております、サラリーマンで全くノータッチというわけではなくて、少しずつ関心を持ってもらって、地域に溶け込んでもらうという活動もそれぞれの地域で行っているということがあります。

原委員 ボランティアというのは区社協がやっておるんですが、依頼を受けまして区社協でもって教育をしております。これを教育するはいいんですが、区社協で募集すると地元には根づかないんですね。あちこち行っちゃうだけです。他区へ行っちゃって、他区でもって活動するという方が結構おいでになるんです。だから、区社協で育てるといことはなかなか難しい。ですから、地域でもって募集して区社協で教育するというなら話はわかる。その地域をよくご存じの方が集まってまいりますので、それならそれでもって地域に落ちつくんです。だから、地域の募集の仕方をやっていただければありがたいと思うんです。区社協では教育の方は別に幾らでもさせていただきすますので、相談に乗りたいと思います。

横川委員長 ありがとうございます。ただいまの原委員のお話ですが、地域の町会長さんはたくさんおられますから、町会長さんの人間的なお人柄と魅力によっては集まりぐあいが違うのではございませんか。

藤枝副委員長 うちの町会にはちょっと縁がない話なんです。といいますのは、うちの町会は半世紀以上にわたって、半ば強制的に婦人部も含め男性にも全部回ってくるんです。そうしますと、毎年、町会にすばらしい人が必ず一人は出てきます。昨年の場合、戦後初めて男性の婦人部が出ましてね。学校の先生なんです。すごい大評判でした。女性並みにエプロンをかけて、婦人部の仕事を若い男の人がやったんです。いろいろな人に順番が回ってきますから、東京電力のお偉方だとか、今ここにお見えになっていますけれども校長先生をやっていた方もやっていたとか、すばらしい方が出てくるんです。今ごろになると、町会長は役員さんでかなり頭を痛めますけれども、うちの場合は半ば自動的に決まってくる。そのほか足りない分を町会長がある程度指名してやるという感じで、一時、市長なんかからも団塊の世代をいっぱい使ってくださいと言われてたんですけども、うちの場合は余り関係ないんですね。自動的に決まっちゃうので非常に恵まれた町会です。これは決して皆さんの参考になりませんが、区長もおっしゃったけれども、これからこのような取り組みをしないと役員がいなくなってくる町会が多いんじゃないですか。はっきり言えると思います。余り答えになりませんが。

高島委員 今の目的から離れるような離れないような感想なんですが、私は文化団体の方から出ているわけですが、全市にわたっての文化協会という一つのトップの集まりの総文連というのがございまして、毎月各区の均衡のとりぐあい、物の考え方を発表され、また

個人的にも聞く機会がございます。

中原区文化協会では、今年からはメンバーもかわりまして、非常に画期的な、他区のいいところを取り入れて新しいことを心がけようということで意見が活発になってまいりました。

そういう意味で、今、町内会と社協さんのお話が出ましたが、本当の人間の生活に携わる面ともうちょっと夢のある部分、その両方のサイトの募集の仕方とか、そういうことはぜひ区の方でも考えていただきたいと思っております。これは私の感想でございます。

横川委員長 ありがとうございます。一つのことをきっかけに、多面にわたってバラエティに富んだ意見がたくさん出ました。

鈴木委員 実は先ほど吉房さんから団塊の世代のお話で、今、高島さんまで話がつながったんですけども、実は私は団塊の世代の第1号でございまして、今いろいろなことでシニアと言われて、大変怒りを持っておりまして、その言葉はやめてくれと言っています。ちなみに、川崎市は50歳以上は全員シニアという枠に入るということで今度抗議しようかと思っております。

それで、私たちの仲間なんですけど、私たちは団塊の世代ということで勝手な世代というか、わがままというか、そういう代表なんです。私も含めてそうなんですけれども、ですから、例えばどなたかが教育してやるとか、教えてやるからこっちへ来いとか、そういうのは絶対に振り向きたくもないところなんです。私たちの世代は安楽があったり、いろいろなことがあって、自分たちのことを考えていろいろなことをやってきた世代なので、強制されたり、ボランティアをしろとか、そういうのはどっちかというところと反発したい。できれば、誘われなくても魅力的なものがあれば飛びついて入っていききたいという年代なんです。私の周りにはみんなそうなんです。

みんなそれぞれ自己主張が強くて、全部自分の趣味の方に没頭しているんです。ですから、その道の方で半ばプロになっているような人たちが周りにいっぱいいるんです。そういう人たちに、自分のことだけじゃなく、世の中のこと、周りの人のためにもそのエネルギーを分けなさいというふうに持っていかなきゃだめだと思うんです。

ですから、受け入れ側も魅力あるものをいろいろ計画して、こんな魅力的だから来てください、入ってみませんか、試してみませんかと言わないと、ただボランティア、ボランティアしろでは……。おまへたちは人数が多いんだから、税金を食ってきたんだから、今度恩返ししろなんて言われても一朝一夕にはできないと思っております。

まだ私も川の中に入って元気ですし、まだみんなばりばり現役なんです。ですから、そういうのを考えて、私たちを一緒にくたにシニア、シニアというふうには追い込まないでいただきたいと思っております。そういう面で、町内会でも何でも、いろいろなボランティアでも考えていただいて、とにかく受け入れ側がいいアイデアを出す、魅力的なことを考えろということをお願いしたいなと思っております。以上です。

横川委員長 ありがとうございます。委員さんの中でもいろいろ考えが違うというのは大変いいお勉強になりますよね。

生富委員 生富でございます。

先ほど木場田区長からのお話が出たんですけれども、いわゆる団塊の世代ですか、今からふえてくるわけですね。それで、団塊の世代がどれぐらいのパーセンテージかはわかりませんが、読売新聞で一度、団塊の世代は仕事をやめたら地域に貢献したいと言っている人が多いというのが載っていたのを見たことがあります。行政の側も今考えておられるようですけれども、一度、全員とは言いませんけれども、少しアンケートをとられたらでしょうか。どういったものをやりたいとか、どこに不満があるとか、そういうのを一度とおかれなると、こちら側だけ何かしてもちょっとと思いますので。

横川委員長 区長様、ただいまのアンケートをとってからにしてくださいということでございますけれども、それは一応お耳に入っているからよろしいじゃないですか。お返事を欲しいわけですか。

生富委員 同時進行でやってくださいということです。

横川委員長 じゃ、その言葉をお聞きいただいて、特にお返事は必要ないですね。

生富委員 いいです。

横川委員長 いろいろ出ましたけれども、この際もう一言とおっしゃる方がいますか。

東田委員 東田と申します。ただいま各委員さんから高齢者の地域での活動ということでお話しいただいたと思うんですけれども、私は、それよりも高齢者をいかに地域に出していくかということを考えていかなければいけないのかなと思っております。と申しますのは、我々団塊の世代という——ここにいらっしゃる皆さんはほぼそういう中に入られるんじゃないかと思うんですが、ひとり暮らしで家の中に閉じこもっているような高齢者をいかに地域に引っ張ってくるかということをもっと考えて、この会議が始まったような記憶をしておるんですね。ですから、我々に対しては、どこかで何かの役に立ちたいと思っ
ている方がたくさんいらっしゃるのでさほど心配していないんですけれども、今、鈴木委員さんからのお話もあったとおり、声かけをしていかに出してくるかというようなことを前向きに取り扱っていった方がいいかなと考えております。

今後の課題かと思えますけれども、我々もおじいちゃん、おばあちゃんがいて、我々が育ってきたんだよというようなことで、そういうようなことを含めて、もっと年上の人たちに地域で元気な姿を見せてもらいたいと思っております。以上です。

芳賀委員 芳賀でございます。今、皆さんの話を伺ってしまして、すべてもったもな話だと思っ
たんです。ただ、本人がそういうものができていないと入れないとかと、非常に引っ込み思案のところがあるんじゃないかなと思います。それで、いろいろな分野でいろいろな活動がいっぱいあるんですね。だから、お年を召された方は、何をしようかというのではなくて、自分からひとつ探してほしいなと思っ
たんです。それで、探して入っていけ

ば、そこにすごい楽しみもあるんですよ。それから、友達もいっぱいできますし。そういうことを考えていくと、世界が今までの世界以上に広がってくるんですね。ですから、団塊の方、お膳立てを全部しておかなきゃというのではなくて、自分からひとつ探していけるような年寄りになってほしいなと思うんです。最後ですから、ぜひ頑張ってくださいなと思っています。

横川委員長 ありがとうございます。でも、ご夫婦の場合は奥様が、出ていくんじゃないよと言って絶対出さないお家もあるのです。自分が出たくて出たくてしようがないのに、出て行って無駄遣いして、そんなところで顔を売る必要はないから、一つの仕事が終わったら、あんたはもう出ていかないで今度は私が出る番よと言って全然出さないお家もあるのです。そういうことをアンケートでとったら、出させてもらえない男の人が結構いらっしゃるんですよ。気の毒だなと思ったけれども、一面だらしがいないなとも思いましたけれども、そういうご家庭もあるということをお心にとめておいていただきたいなと思います。

原委員 ひとり暮らしでもって社会に出にくい人、これは本当に大変だろうと思うんです。民生委員の方はよくご存じです。民生委員だから調査ができますけれども、我々は調査ということはとても無理なのですが、どんな行事があっても出ない人は出ないんですよ。どんなことを言っても出たがらないんですよ。年をとると出にくいことは出にくいんですね。体が言うことを聞かないから出にくいんですが、だんだん認知症になっちゃいます。認知症になるとなお出ないというような繰り返しなんです。その方をどうしても社会に出したいならば、知っている人以外だめですよ。知っている人を經由する以外何のものもないんです。知り合いでもってその人を認めないと絶対出てこないです。民生委員が行くと職権みたいなことになっちゃうので、民生委員が行ったってだめなんです。だめなものだめなんです。ですから、知り合いを經由する以外にないんです。仲がいい友達。ですから、心の問題なんですよ。要は心。お互いに心の通じ合った人間だったら、どこへでも出ていくんでしょ。ですから、お手伝いする方はそれを心得ていないとできない。だから、教育をするんです。その心得のために社協は夢中になって講習をやっているわけなんです。そういう教育をしないと、なかなか信頼される人間にならない。信頼される人間にならないと、とてもじゃないけれども介護というのは難しゅうございます。ですから、何の行事をやっても、だめなものはだめなんです。

横川委員長 あきらめないで、よろしくお願いします。

原委員 だから、仲間を連れてくることです。その人を知ることです。

三竹委員 今、原さんがお話になりましたが、とにかく出てこない人をどういうふうにしたらいいかというのが私たちの一番の課題です。人間というのは回を重ねると、いつかは打ち解けるといふ事実も確かにあります。それから、行事としましては会食会を通して。そのときも私たちだけでなく、今お話がありましたように、どんなに外に出たくない人も一人や二人のお友達っていらっしゃるんですよ。その人をお願いするとか。今、うちの

いこいの家でやっておりますのは、もう人数がふえてきてしまって、ちょっと飽和状態というか……。そういう地道な努力というのは重ねていかないといけない、それが私たちの今の一番の課題でございます。

横川委員長 ありがとうございます。

出尽くしたようではけれども、まだ出尽くさない方お一人、どうぞ。

高島委員 今、商店は団塊の世代をいかに地域に持てるかということと高齢者をいかにどうにかするかということと、話が随分離れていますが、どこら辺がポイントだったんでしょうか。ちょっと出発を忘れました。

横川委員長 高齢者の住みよいまちづくりからそちらの方へだんだん発展していっちゃって、魅力がなければ来ないなんて言うてみたりいろいろ広がってしまいました。次のにもちょっとかかってきているようなところもあるので、次のテーマに移らせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでございましょう。何だかご自分が高齢者なのか、すごい真剣に取り組んじゃって、びっくりしています。本日、そのテーマを取り上げたみたいで…。

第2回目は、「地域の安全・安心をどう守るか～子どもの見守り活動を中心に～」を議論いたしました。また、いろいろな意見も出されました。

それでは、先ほどと同様に事務局に簡単にご説明をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局 では、第2回の区民会議についてご説明いたしますので、先ほどの報告書案の23ページをお開きいただきたいと思います。と存じます。

第2回目の会議については、「地域の安全・安心をどう守るか～子どもの見守り活動を中心に～」ということで議論がなされました。

まず委員さんからの提案といたしましては、一番上でございますように「青少年指導員とPTAだけでは見守り活動をやり切れないところがあるから、ぜひ町内会等にも輪を広げていきたい」、それから4つ下でございます「買い物しやすい商店街をつくっていく一環として、安全・安心への取り組みにも積極的に参画していくことが必要と考えている。商店街としても地域の宝である子どもたちを見守っていく活動にぜひ参画したい」、あるいは3つ下でございます「子どもの見守り活動は、一人一人が、地域みんなが、ご近所同士仲良く子どもたちを見守っていこうというのが基本だと考える」などといったような提案がなされました。

それで、地域の方では、一番上でございますが、「地域の安全安心情報交換会（井田中学校区地域教育会議主催）で、区民会議での取り組みを紹介した。また、近隣の町内会と防犯活動での連携を始めた」、そのページの一番下でございます「木月地区の見守り活動は、民生委員児童委員協議会だけでなく、老人クラブも参加するようになった」とか、24ページに参りまして、一番上でございますが、「小杉町2丁目町会で子どもの見守り運動

を展開することを検討している。また、併せて通学路を点検し、安全マップを作成する予定」とか、2つ下になりますが「中原区安全・安心まちづくり地域推進協議会では、子どもの見守りという分野に固定することなく、地域全体の防犯・防火意識の高揚を目的に研修会に開催し（平成19年2月20日開催）、高齢者の見守りネットワーク活動などの活動事例報告を通じて区民への啓発に努めた」などの取り組みがなされているところでございます。

また、学校及び行政といたしましては、2つ目でございますが、「区役所所有の公用車13台に新たに青色回転灯を装備し、2月から公用車で区内を巡回する際には青色回転灯をつけて区内を走行し、犯罪・火災発生の抑止に努めた」、その下の「平成19年度中原区協働推進事業において、青色回転灯を地域での自主防犯パトロールに貸し出す事業を計画」、一番下でございますが「中原小学校では、毎日の児童の下校時刻を地域パトロール隊へ計画的に知らせるなど連絡を密にとることによって、パトロール隊の活動がよりタイムリーなものになってきている」といったような取り組みが進められているところでございます。以上でございます。

横川委員長 第2回目は「地域の安全・安心をどう守るか～子どもの見守り活動を中心に～」でございます。説明は以上のとおりでございますが、先ほどと同じようにご意見、またはこの際、一言とおっしゃる方はどうぞ。

生富委員 西丸子小学校に関して聞きましたところ、PTAが中心になって見守りをやっているということなんですけれども、具体的なものとして、ドラえもんの絵が張ってある家にはいざとなったら駆け込めと子どもに教えているということではございました。子ども110番ですね。

尾澤委員 買い物しやすい商店街づくりということなんですけれども、私ども新城で活動している者なんですけれども、小学校から不審者情報というのが上がってくる場合があります。これについては、私は各商店街の会長あてにこういう情報があるよということで、そういう不審者情報というのは上がってきて初めてわかるんですけれども、この間こういうことがありました、先日はこういうことがありましたという地域で起こっていることを商店街の会長さん方に今話すようにしているところなんです。

後で触れようかと思っていたんですが、子ども110番ですか、これについては、見守りの活動をしているところなんですけれども、限界も多少あるんですが、ぜひこれからもきめ細かくしていきたいというふうに商連でも考えております。以上です。

横川委員長 ほかの地域ではいかがでございましょうか。

水品委員 PTAの代表として来ている水品です。ここでも書いてありますように、学校の方では青少年指導員とPTAだけでは子どもを見守ることができないということで、町会、地域の方々の助けが必要だということは、私はPTA活動をやっておりますけれどもすごく実感しております。

今、不審者情報の話が出ましたけれども、ほかの区、特に高津区なんかは携帯サイトで不審者の情報を会員さんに流しているということです。中原区ではそういう動きをしたいなとPTAの方から出ていますが、まだなかなかそこまではいかないという状況です。東田委員 ただいま水品委員さんの方から、青少年指導員とPTAだけでは子どもの見守り活動はやり切れないところがあるのでぜひ町内会にもという話なんですけれども、たまたま私は青少年指導員の代表ということでこの会に出させていただいているところなんです、私どもの活動としては、PTA、学校、青少年指導員ということで、一つのきっかけになればということで、ただいまPTAとの情報交換会、また各中学校区ということで、先生も含めた情報交換会をしながら、子どもの見守り活動をどのようにしていったらいいかというようなことで活動しているところです。

また、先ほどドラえもんのマークのついた子ども110番なんですけれども、これは川崎市青少年の健全な育成環境推進協議会というところと市の事務局、それから諸団体とがタイアップしまして、ドラえもんのマークを無償で藤子・F・不二雄さんのところから提供させていただいて、今現在、川崎全市で使っているんです。これは以前は子供110番という縦型のマークというんですか、そういうものが張ってあったんですが、それより目につくものということで使わせていただいているところです。

おかげさまで、昨日、全市のPTAと青少年指導員の今期末の情報交換会を開催したんですけれども、子ども110番を掲げているところに事件性を持って飛び込んだという事例は今のところ全くないということで報告を受けております。子ども110番というのは、一つの抑止力になるということではないかと思っております。そういうような関係で、私どもも、青少年指導員、PTAだけで見守り活動をやるということではなくて、一つのきっかけ、抑止力の一翼を担うということで活動を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

佐野委員 佐野と申します。何かからお話ししていいかわかりませんが、東田さんの方からも今お話がありましたように、抑止力ということで、2年前から顔見知りになるために小学校単位でのあいさつ運動をやらせていただいております。私は丸子に住んでいる関係で、西丸子小学校と上丸子小学校があるんですけれども、そちらの方で朝8時から8時半、毎週月曜日やっております。ローテーションを組みますので、私個人的には月1回程度なんですけれども、その中で、やはり子どもたちの声が見えます。第2回目にも報告があったと思うんですけれども、その中で、子どもたちの朝の状況、それから、「きっかけはあいさつから」ということで、ふだんから声を出していると悪い人も遠ざかっていくということもありますのでね。ましてや、小学校1年生は黄色のビニールのカバーをつけていまして、ねらわれやすいので、特に小さいお子さんに大きな声で「おはよう」とあいさつをさせていただいております。それは民生委員が毎週やっているんですけれども、これがきっかけで、いろいろな方向で広がっていければなと思っております。

これは朝のあいさつ運動なんですけれども、上丸子天神町さんが西丸子小学校に近いということですが、1年生から6年生までの下校時間というのは全部違うんですね、その中で表を出していただいて、その時間に老人会の方に立っていただいている。町会長さんが学校の方に出向いてお話をなされたんですけれども、下校時もちゃんと見守りをしてくださる。ただ、最初は、通学路がどこだかわからないので、通学路に立っていても子供は帰ってこないとか、それから、きのうもそうだったんですけれども、老人会の方が立っていらっやっして、「まだきょう子供が通らないんですよ」と。そしたら、卒業式の練習で30分おくれたということがありましてね。そんな連携もとらなきゃいけないのかなど。職員室にお電話しても、全部体育館の方に出払っていて連絡がつかなくて、子どもたちはどうしたのだろうと、そんなこともあるわけです。そんな細かな連携も学校はちょっと煩わしいかもしれませんけれども、そんなこともやっているようでございます。

地域の安全・安心、子どもの見守りということで、今就学児童のお話がたくさんございましたけれども、地域の中で、三竹会長初め、中原区内で子育て推進事業をやっているんですね。そんな中で、子育てサロンという形で、現在14カ所で始められております。丸子でも集計いたしましたら、年間で649組、1,344人、スタッフを含みますと1,751人という数です。これは丸子だけの数でして、ゼロ歳から1歳半までの親子の数です。大戸さんなんかは非常にたくさんマンションがあります。うちの3倍、4倍の数だと思いますので、そういうサロンを開かせていただいております。これも何かのきっかけで、三つ子の魂百までではないですけれども、今子育て中のお母さんが安心して子育てできるような見守りも地域の中で大事な一つとして活動を進めさせていただいているところでございます。青少年に関しては、今、東田さんがおっしゃったとおりで、そちらの方も一緒にやらせていただいております。以上でございます。

生富委員 水品さんはPTAの会長でいらっやっするわけですけれども、今、盛んに声をかけることがいいというお話が出たんですけれども、これは多分子どもさんから大人に声をかけるということを意味しているのだと思います。よく事件が起きるときには、逆に大人の方から誘って車に乗ってという事件がございますよね。だから、子どもさんに、この人は大丈夫よ、この人は危ないわよと、そういうのは具体的には声かけ運動に関してはどのように指導されているのでしょうか。

水品委員 なかなか難しいんですけれども、親にそういうふうに指導していて、親が自分の子供に、知っている人以外は逃げなさいとか——逃げなさいとかというんじゃないんですけれども、とにかく親が子供に一人ずつ指導しているという感じです。だから、PTAとしてというのは特にはやっておりません。

横川委員長 ご家庭でのご指導にお任せしているわけですね。

生富委員 それで、学校の先生というのは、意外と一般人とかかわるのは余り好みません。PTAの方は一般人ともつき合えるし、学校の先生ともおつき合いできるという立場

町内会の会館に大きく張ってありますよね。それを小さくしたやつを各家庭に回覧したんです。それはちょっと見にくいので余り効果はなかったと思うんですが、会館へ来るとよくわかるのでね。会館で老人会とか子ども会の人たちが見て、ああ、こういうところだなということがわかるんですが、とりあえずこのまちは犯罪がしにくいまちだというようなことを知らしめるには、さっき言ったのぼり旗とか、そういうもので自分たちの家もすべて見守るということが一番肝心だろうと思っております。町会全体でやろうじゃないかということは、今進めているわけです。それが現在の進捗状況でございます。以上です。

生富委員 この前横浜で見たんですけれども、公園で子供が遊んでいる、大人が1人見ているというふうな状況をつくってほしいですね。それから、ベストよりも腕章の方が簡単みたいですね。いわゆる子どもを見守る人は、例えばそろいの腕章をつけるということも非常にいいと思います。

横川委員長 いろいろ出ましたけれども、何しろお子さんのことに関しては、ご家庭のご両親の啓蒙が大変だと思うんです。ですから、親御さんたち、または町会長さんなどが機会をとらえてお子さんの安全守るように、ぜひこういういろいろな意見をお伝えしていただきたいと思うんです。

三竹委員 うちの方もあいさつ運動を始めましてちょうど1年たつんですが、思わぬところに波及があったというのが23ページに出ております。先日、新城小学校と高校の間の道がひどく陥没したことがあったんです。そうしましたら、2つの町会でしたけれども、あいさつ運動の地域のボランティアの方同士が顔見知りとなって、その2つの町会の方が本当に自発的に下校時に場所に立って、ここだったら安全だからと誘導をされた。そういうところにもあらわれるということです。ただあいさつだけではない、地域に広がったということを一言。

原委員 今、三竹さんのおっしゃったいいことなんですが、うちの方は学校と地域が一緒になって清掃活動をやっているんです。そうすると、またあいさつが生まれてくるんですね。あいさつが生まれてくると、自然と、あのおじさん、あのおばさんになってくるんです。だから、そういう関係をつくった方がこれからいいんじゃないのかなと。学校にもご理解いただかないとだめですね。学校のご理解をいただきながら、生徒が地域に戻って、地域活動をする。人を知ると悪いこともできなくなるんですよ。お互いに声をかけ合っちゃいますから。あのおじさん、あそこにいたとすぐわかりますので。ですから、そういうことが地域では必要かなと考えます。

横川委員長 皆様はどこへ立っても、お顔が売れていますからよろしいですけれども、ぜひお子様たちによろしくお声をかけてくださいませ。

大体出尽くしたように思うんですけれども、次のテーマの方に移りたいと思います。いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

竹井副委員長 さっき水品さんから携帯サイトの話がちょっと出たんですけれども、多分

ご存じの方がいると思いますけれども、全市の方で学校単位か何かに携帯等への電子メール配信でそういう犯罪情報を流し始めたと聞いていまして。受け取った保護者の方は、すぐそばの情報なので、あそこら辺で何かあったんだなというのがわかって非常にいいという話も聞いています。だから、そういう情報は今は多分保護者を対象にしているかと思うんですが、近隣の町会とか住民の方も申請なりしておいて、受け取ることができるようにすれば、自分のそばの情報だと、あそこで何かあったんだたら少し気をつけてみようかなということになると思います。これも教育委員会との話になるとは思いますけれども、そういったことも地域で言っていったらいいのではないかなと思いました。

横川委員長 いろいろありがとうございます。この辺は中学生がまちでたばこを吸ったり、不良行為が余り目立ちませんし、ほとんど見ないですね。そういう姿を小学生も見えていますから、そういう悪い、非行に走るといふ面は見当たらずで、大変いいまちではないかと思っております。私が言っただけでは失礼ではございますが。

大体出そろったようですので、次のテーマに移りたいと思います。

それでは、第3回は「地域の中の商店街～地域と商店街の新たな連携を考える～」ということで議論をいたしました。それでは、先ほどと同様に事務局からご説明をいただきたいと存じます。

事務局 それでは、3回目の区民会議についてご説明いたしますので、先ほどと同様に、報告書25ページをお開きいただきたいと存じます。

第3回目の区民会議は「地域の中の商店街～地域と商店街の新たな連携を考える～」についてご議論をいただいたところでございます。

委員さんからの提案といたしましては、まず一番上の「身近な商店街同士が一つになる形でまちとして売り出せば、商店街を市民により大きくPRできると思う」とか、4つ下にございます「お年寄りや子どもたち、足が不自由な方などのために商店が中継点になって配達できるようなことができないか。また、昔の御用聞きのように電話一本で持ってきてくれるようなこともできないだろうか」とか、「商店街の中に有償でもいいから子どもを預かってくれる場所ができるといいな、と思う」、あるいは「市や国からお願いしたり、法制化したりして、コンビニなど大きな企業にも組合に入ってもらいたい」、5つ下になりますが、「一店一いいこと運動みたいなことを行い、商店街でまとめて情報発信してもらえると地域の人は行ってみたいと思うようになるのではないか」といったようなご提案がございました。

地域の方では、2つ目になりますが、「新丸子地域のさくら祭りで自転車と共生するまちづくり推進委員会による放置自転車撲滅キャンペーンのための場所の提供の話があった」とか、26ページに参りまして、上から2つ目になりますが、「中原区商店街連合会では、各地区の商店街の活性化や振興策の参考例として商連の定期役員会で、区民会議のビデオ、議事録などを報告した」とか、3つ下でございまして、「子育て支援推進実行委員

会として、中原区で創刊した子ネット通信を開業医に置いて、子育て中の保護者に配布できるように検討したい」とか、1つ飛ばしまして、「平成19年4月1日、小杉地区、丸子地区の14商店街、市民文化団体及び行政がパートナーシップを組み、丸子・小杉合同桜まつりを開催することになった」といったような取り組みが検討されているところでございます。

また、行政といたしましては、例えば「モトスミ・オズ通り商店街が実施しているメール配信サービス、オズファミリークラブにおいて、子育て中の親子に向けた情報配信をしたいとの申し出があり、区子育て情報ガイドブックや子ネット通信を送付している」とか、このページの一番下でございます「商店街が地域の情報交換や交流の場など地域住民の生活を支援する地域コミュニティの核として期待されており、今後区役所としても地域と商店街との連携を一層強化していく」などの取り組みを実施、あるいは検討しているということでございます。以上でございます。

横川委員長 ありがとうございます。

説明は以上のおりでございますが、先ほどと同じようにご意見がございましたらどうぞよろしく願いいたします。

尾澤委員 商店街の尾澤でございます。冒頭に申し上げたいんですけども、商店街がこういう正式な場でもって商店街に対していろいろのご意見を拝聴するということは今までなかったことなんです。あったとすれば、消費者懇談会といいますか、そういうのは行われていまして、地域商店街などがやっていたけれども、こういう形でやっていただけたというのは今回初めてと思います。きのうも私も中原区商店街連合会の理事会がございました。そして、その中で、こちらに書いていただきましたけれども、ビデオを拝見したりしたんです。中にいろいろ具体的なご意見、先日資料をいただきましたが、その部分を抜粋して皆さんに発表したんです。お褒めをいただいた部分もありますし、それから、ご要望やご意見やたくさんいただいているんですが、商店街は過去には商品をそろえて、そしてお客様にお買い上げいただいて、生活の文化の担い手というんですか、そういうこととか、地域の町内会とか自治会などの行事に参加したり、それから、お祭りなどにも参画したりして、地域のコミュニティの核になっていた時代が長く続いてきたと思うんですけども、最近、今ご報告がありましたようにそれだけでなく、子育てですとか、高齢社会の支援ですとか、商店街の機能以外のところで社会のニーズが非常に高まってきていると考えているわけです。そのことを踏まえながら、今後の商店街の役割として求められている責務を果たしていくことが、地域商店街がこれから生き残っていく重要な課題ではないかと考えています。

ただ、そのことについて、きのうもいろいろ話が出まして、いろいろ考え方があるんですけども、これが私の考え方なんですけれども、今回、いろいろ耳の痛い部分もありますし、なるほどというところもあるんですが、地域の商店街としてこれから私どもが発展

していくために、皆さんのご期待、お励ましの言葉だなどと考えまして、ぜひこのことを実現するようこれからも考えていきたいと思っております。商店街はなかなか厳しい状況がありまして、全部が全部できるわけではないんですけれども、やれることからやっていきたいということです。

それから、もう一つ、小杉の再開発がございます。1万5,000人とか2万人とか、たくさんのお客様が新しく住民としておいでになるわけですけれども、ただ単に住民であるだけでなく、私どもの新しいお客様、消費者になっていただかないと、ただ単に住民がふえるということだけでは商店街は成り立ちません。このまちづくりの中で、既存の商店街がこれからも地域に必要な施設として求められている機能を果たしていくための施策を、商業観光課の課長さんもいらっしゃいますけれども、そういうところで構築しているところなんですけれども、その辺についても、行政に対しましてはぜひご支援をいただきたいと思っています。

このような大きなプロジェクトが行われますと、過去の例もあるんですけれども、日の当たる部分と日陰の部分というのが必ずできるんですよ。このことについては、私は商店街の者なんですけれども、私たちの仲間がいなくなってしまうようなことがないようにしていきたいというのが私の最大の願いであるわけですし、そのことも踏まえながら、これからも皆さんのお力をおかりしながら商店街づくりを進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

芳賀委員 芳賀でございます。私の方からちょっと。25ページの下の段に地域での活動の広がりというのがございまして、1つ目の黒丸で元住吉周辺の商店街及び新丸子云々と書いてございまして、そこの最後の方に「フォーラム開催の検討を始めた」と。活字になってくるとこんなにはっきりしてしまうのかなと思うんですけれども、そういうところまでまだ至っておりませんで、新丸子や元住吉でも自転車のことで相当困っているということで、一緒にやらなきゃいけないね、これからみんなで連携するというような構想が出てきたというか、そういう段階なんです。「検討を始めた」と言うと、いかにもすぐ会議でも開くような感じになりますけれども……。

横川委員長 一生懸命やっているように思われて困るというわけですね。

芳賀委員 はっきり言えばそういうことになるかもしれませんが、そういうことで逃げるわけではありませんけれども、まだまだここまで至っていない、今準備段階であるということだけ皆さんにご了解いただきたいなと思います。やっぱり活字になると恐ろしいですね。

それから、その下なんですけれども、桜まつりの方のキャンペーンに場所の提供の話があったと。これは事実なんですけれども、大変申しわけなかったんですけれども、私どもの方の手が足りなくてこちらの方まで回り切れなかったということで大変失礼なことをしているんです。そういうことが逐一ここへ出てしまったので非常に恥ずかしい思いもして

おります。

それから、自転車のことなんですけれども、ついでに一言言わせていただきます。そういうことで、中原区というのは非常に自転車の多いまちなので、どこの駅前でも商店街の方は非常に苦労されていると思うんですね。私どもも皆さんの気持ちも十分理解できるんですけれども、いずれにしろ、私どもの委員会では、設立当初は中原区全体の自転車を何とかしたいなという非常に大きな志で始まったんですけれども、実際やってみまして、時間もたっているんですけれども、なかなか全域に手が回らないという状況です。ですから、後の方にも出てきますけれども、今、新城とか中原の方の商店街さん、町内会さん、そちらの方でも機運が高まっております、そちらの方とも連携してやっというということで、会議等は一緒にやっているんです。そういうことで、全区全市、自転車のことに関心を持っていただいて、皆さんのご協力をいただかなければ何もできないという状況です。ぜひご協力をいただきたいと思います。

横川委員長 ありがとうございます。言葉のことはあちらへ任して、そんなご心配なさらずに。

高島委員 ことしの桜まつりの件に関してですが、商店街に私自身が住んでいて、8商店街、新丸子にあるということが役所からの活字で初めてわかったわけですが、それが今回、全体として一つのイベントが起きるということは非常にうれしいと思っております。それに加えまして、文化協会でもぜひ地域とともにやろうということで、今回初めて参加することになるんですが、区民祭のことに关しましても、従来の文化協会ですと、どうしても離れたイベントとして役員の方で考えている方が多くて、区民祭と中原区の文化祭というのが単独だったんですね。それが年度が新しくなったところで同時にしようということで参加させていただきました。

それでわかったんですが、文化協会の役員の方は中原区全体から来ているはずなんですが、「桜まつりを医科大のグラウンドでします」と言うと、半分の方が「どこですか」と言われたんですね。私どもは当然知っている場所だと思っていたんですが、新丸子の日本医科大のグラウンドを知らないという方が60団体ぐらいの半分いたということはびっくりしました。

それから、今月の初めですが、ミュージアムが今度4月から改装されまして開放されるに従って、ミュージアムを見学しようという会を設けましてね。ミュージアムに一度も足を運んだことがないという人が結構いましてね。宮内に住んでいてミュージアムに行っただことがないという方がいまして、本当にびっくりしましたね。ですから、文化、文化と言っているんですが、本当に小さな自分の世界だけで生きている方が非常に多いなと思いました。それで、人ごとではなくて、今、区民会議でメンバーの方とお会いしていますと、いろいろな方たちがいらして、この方たちがどういう活動をしているのか、私自身半分は知らないということで、非常に申しわけなく思っておりますが、そういうことも含めまし

て、ちょっと自己PRさせていただきますと、5月に中原街道時代祭がまたミュージアムで行われます。今、横川さんが実行委員長となりまして、お力を区役所とともにかしていただいているんですが、本年もそういう意味で、ここにいらっしゃる方、実行委員になっていただきたいと思います。2回ぐらいの会議で開催となりますので。私も含めまして、これから皆様のところに家庭訪問に伺おうと思っておりますので、よろしくおつき合いのほどお願いいたします。

小須田委員 小須田と申します。ここで触れてないんですけども、商店街は自転車の問題もわかるんですが、今これだけ車社会になっていまして、私の場合、モトスミ商店街、オズ商店街に近いんですが、近いといっても2キロぐらいあるんですね。そうすると、前は車を使って行っていたんですが、駐車場がだんだん込み出して車を置けないと。それで、近くに生協ができたということで、商店街に行く機会が非常に減ったんですが、ここでは車に関して一言も触れてないんですが、駐車場というのは商店街として必ず必要だと思うんです。その辺も、各商店街の方、お考えになっていただければありがたいと思っております。

○尾澤委員 おっしゃるとおりなんです。駐車場のことは私ども一番頭の痛いところでね。今このような状態の中で、商店街が独自に駐車場を設けるとというのが物理的にほとんど難しい。それができない結果どうなったかということ、最近の大型店が大きな駐車場を設置することで、駐車場のあるところがどうしても栄えてくるというようなことで、先日できましたラゾーナなども日曜日なんかに行くはずらっと並んでいまして、なかなか入れないというようなことなんです。小須田さんがおっしゃるように私どもも駐車場の問題は一番頭の痛い問題なわけです。なおかつ、駐車場がない結果、いいお客様は商店街においでになれないということが頭の痛いところですよ。活性化といいましょうか、商店街の繁盛を阻害している大きな要因になっていると思います。ちょっと難しい問題です。これは商店街だけの力だけでは解決不可能ではないかと個人的には思っています。

横川委員長 自転車の置き場ぐらいはどこでもあるんでしょうけれども、でも、その辺も整理して、皆さんが買い物しやすいようにお心配りができるとよろしいですね。

尾澤委員 委員長さんのおっしゃるとおりで頭の下がる思いです。

水品委員 私は前は欠席させていただきました。内容はちょっとわからないんですけども、商店街と自転車ということで個人的に思ったことなんですけれども、実は駅から10分ぐらいのところに引っ越しをしたんですね。今までは私自身、新聞の広告を見て、スーパーの安いところに自転車で走っていくような状況だったんですけども、最近は駅まで歩くようにしたところ、こんなところにこんなお店があったとか、新しい発見ができたということで、自分の健康のためにもそうだし、自転車公害のためにも自転車で行かないで済むし、歩こう運動みたいなことをできたらいいんじゃないかなと思いました。

三竹委員 私の町会の商店会の会長さんに第3回のブレーメンとオズ商店会の発表をお伝

えしたんですね。そうしましたら、すごいねとそのときはおっしゃっていました。それから1カ月ぐらいしまして、こんなことをしますよとチラシを1枚くださったんですね。そうしましたら、商店会の中に集会所といいますか会館といいますか、ふだんは会議とか、あと売り出しのときの抽せん所ぐらいにしか使っていなかったんですけども、そこで地域の小学校の6年生の版画を展示することにしたから見てねと言われて、行きました。そうしましたら、6年生の作品がいっぱい張ってありまして、すごい力作でした。中には、うちの孫のが張ってありますなんて言う人もいました。それで、感想を書くノートが1冊置いてありまして、私も書いてきましたが、これからできるだけ地域の人とかかわり合って、今度は何をするかなとおっしゃっていました。そんなこともこちらの会議から生まれたかなと思いました。

佐野委員 焦点がぼけてしまうかもしれませんが、今まで3つのテーマでお話をなされてきたんですけども、高齢者、地域、商店街ということで子育ても含めてなんですけれども、仁上さんが川崎中原工場協会副会長さんということで、地域の産業、まちの活力ということでご参加されているようなのでちょっとお伺いしたいと思います。

子育てのところでも、今お仕事していらっしゃるご両親が多くて、お休みがとれない、それからなかなか正社員になれないとか、それも含めてなんですけれども、子育ての部分と高齢者の部分で、企業努力している部分のところではどんなところがあるのかなというところでお聞きしたいなと思っております。最近、学校の授業参観なんかでも、土日やっているせいかお父さんの参加も多いんですけども、ふだんはなかなか子育てには参加できないとか。子供というのはご両親で育てるものです。夜遅くまでのお仕事だったりしますが、子育てするためお父さんには少し早く帰ってもらうとか、そんな形にはできないのかと。いろいろ大変な部分はございましょうけれども、そういう面でちょっとお伺いしたいなと思っております。よろしく願いいたします。

横川委員長 子育てに男の方が参加してもらいたいというご希望で、どんなぐあいかというご意見ですか。企業の関係や何かですね。区役所の方を見ていけばわかるんじゃないですか。帰って子育てなんて出てこれる状態じゃございませんわね。皆さんの顔を見て、いかがですか。

区長 お答えは差し控えますが、残念ながらきょう仁上さんが欠席なんです。申しわけございません。

ただ、今の点はこの間も少しお話になった部分もありますので、また次回にお聞きいただくか、または場合によっては、そういうことも含めてテーマで議論してもいいかなと思います。

宮本委員 私は労働組合を代表して来ています。労働組合として、今おっしゃるように家族をもっと大事にして、子どもと接する時間をと。特にお父さんもお母さんも働いているという状況になっています。労働組合としては、ワーク・ライフ・バランスということ

で、家庭も仕事もいろいろな意味でバランスをとってちゃんとやりなさいということで、今会社にも働きかけをしております。そういった中で、どこまでできるかわかりませんが、子どもと接する時間、学校へ行く時間、そういう時間もなかなかとりづらいというところがありますので、とりやすい環境づくりに向けて努力をしているということだけご報告しておきたいと思います。

横川委員長 富士通の委員長ですから。ああいう大会社が模範を示してくださるとほかがみんな見習いますので、積極的に見える活動でお願いいたします。

吉房委員 尾澤会長さん、ちょっとお願いがあるんです。前から思っていたんですが、これは切実なる訴えなんです。1つは、今、駅の周辺はお店がいっぱいあって、いろいろなものをそろえられて、買いやすいところがいっぱいありますけれども、駅から外れた商店街というのは寂れちゃっている。一番肝心なのは、私も含めて高齢者が駅まで行って買い物をするというのはなかなか大変なんです。今、お年寄りも足の悪い方というのは、地域に密着した商店があると、非常に買いやすく、すぐ行かれると。だけど、今の現状では、駅の方に行かないと欲しいものが買えないんです。ですから、結局、ひとり暮らしのお年寄り、また、ひとり暮らしではなくてもお年寄りの人はなかなか遠いところには買いに行かれない。

こういうことに関して、今まで商店の方と地域の人たちの話し合いというのは余りなかったという記憶が私にはあるんです。昔は商店街というのは情報の交換で、「おい、どうだ」と言える場所で、触れ合いの場所があったんですが、今それがなくなった。でも、何とか高齢者が買いやすく、すぐ行かれるところができるかどうか。これは私たちといろいろ話し合っ、できれば高齢者がすぐには買えるような商店ができればいいなという感じがあるんです。それをひとつよろしくお願いいたします。これは難しいと思うんですが。

横川委員長 ありがとうございます。町内の中でリヤカーでも何でも出る方がいたら、商品を積んで回るとか、町会でもいろいろ工夫することがありますよね。ああいう大きい商店街というのは頼んでみても無理じゃないですか。これは私の意見でございます。

大体出尽くしたように思うんですけれども、いかがでございましょう。聞いていらっしゃる方も大分お疲れのような顔でございますので、次の方に移りたいと思います。よろしいでしょうか。

最後に、区民会議をきっかけに、また新たな活動の広がりや委員同士の交流——先ほど高島委員から、相手は何をしているかというようなことも全然わかりません、ですからこれから私のやる行事にご参加くださいという強い要望もございました。皆様奮ってご参加してくださいませ。また、会議の運営やテーマなどについてもご意見をいただければと存じます。

細かいことでここで言いづらいことがありましたら、区長様でも事務局でも直接言ってくださって結構でございますから。そのときはちゃんとご了解を得て、厚かましくしない

でございます。そういうことでよろしくお願ひいたします。

事務局に27ページの説明をお願いいたします。

事務局 それでは、27ページをお開きいただきたいと思います。

この項は第5章になりますが、区民会議をきっかけにした新たな活動の広がりということで、今委員長さんの方からお話がありましたような、委員さん同士の新たなつながりとか、いろいろな広がりを見ているようでございますが、そのご紹介をさせていただいている章でございます。

まず前段では、3つ目でございますように、「尾澤委員（中原区商店街連合会）と芳賀委員（自転車と共生するまちづくり推進委員会）とで、新城・武蔵中原駅周辺の放置自転車対策について連携を図っていくことになった」とか、「藤枝副委員長の協力により、区内全町会に自転車と共生するまちづくりルールの回覧を継続して行うこととなった」とか、その下「高島委員（中原区文化協会）と鈴木委員とで、多摩川渡し舟のイベントを一緒に行うことになった」とか、1つ飛ばして「生富委員（医師）から声かけがあり、子育てサロンの案内チラシを病院の待合室に置いてもらえるようになった」などの交流が広がったということを掲げてございます。

後段になりますけれども、ここはこれからの区民会議に向けてということで、運営とかテーマについて掲げているところでございまして、例えば「委員だけでなく、広く市民からの意見も聞きたい」とか、2つ下の「テーマについて、深く討議する必要があるのではないか」とか、少し飛ばしまして28ページのこの項の一番下になるんですが、「若い人たちによる音楽のまちづくりやスポーツ、マナーアップ、企業の社会貢献などについても会議のテーマとして議論したい」といったようなご意見がございました。

そして、次の項なんですけど、行政についてとか、あるいは地域での取り組みについてとか、その他のご要望、ご意見などを掲げたものでございまして、この項では、まず行政については、一番上の「区民会議の広報を検討してほしい。ホームページを使える人ばかりではない」といったことや、先ほど委員の方からもご紹介がありました地域での取り組みについては、3つ目でございますように、「区内のほとんどの町会で世代交代が進んでおらず、若い人や団塊の世代をなんとか町会に取り込んでいきたい」とか、「休日にスポーツをしている若いお父さんたちが多いので、その中でネットワークを作ってもらおうとボランティアに参加する人も出てくるのではないかと」といったようなご意見やご要望があったところでございます。以上でございます。

横川委員長 ありがとうございます。ただいまのことにつきましてご意見がございましたでしょうか。

生富委員 今ちらっと書いてあったことで、休日にスポーツをしている若いお父さんたちというのは、具体的にはどういうふうなこと、何をやっておられるんですか。例えばどういうスポーツをしているとか、どういう場所ということですが。

区長 これはアンケートに基づいていまして、これは運営部会で内藤さんから出た意見ということでして、これはいろいろなスポーツがございますので、こういうスポーツということではないと思いますが。

事務局 先日の運営部会の中では、例えば多摩川の河川敷などを利用して子どもたちと野球をやっている方たちとか、サッカーなどをやっている方たちだと。そういったような人たちだと分け隔てなく、まずスポーツとか趣味の部分で知り合いになれば、あるいは共通の興味とかがあれば垣根が低くなって連携がとりやすくなるのではないのかなといった内藤さんのご意見があったところがございます。

生富委員 これは行政の宣伝になりますけれども、スポーツ審議会というのがございまして、各区に多目的な体育館をつくって、それぞれ委員、その館長を務められる方を募って、クラブ育成に走っているという現状がありますので、そういうことをこれに書き加えていただくとありがたいかなと思いました。

横川委員長 先ほどはお父様たちが運動しているから、余りこちらへ協力できないという形ではなくて……。

生富委員 そういう意味で言ったのではなくて、そういうものもありますよということで、行政の方からそれが出るかなと思ったら出なかったのも、僕の方からお話したという次第です。

横川委員長 内藤さんは塾をなさっていらっしゃるから、お子様を連れていろいろところで日曜日ごとに運動をなさったりで、そういうことをおっしゃったんじゃないのかなと思いますけれども。

ほかにございましたらどうぞ。

それでは、大体出尽くしたようですので、こちらから総括的なことをちょっと……。

藤枝副委員長 一昨年、試行の区民会議、そして昨年の区民会議をずっと見ていまして、ここにも大分要望が出ているけれども、区民会議自体の存在を知らない人がまだかなりいるんです。だから、これをいかにみんなに見えるような区民会議にするかということはこれから大きなテーマだと思います。今日の皆さんの委員の意見で、例えば水品さんがおっしゃっていたことは、芳賀さんが常々おっしゃっている、自転車になるべく乗らないで、歩けるところは歩こうといったことの意味だと思います。それから、高島委員さんがおっしゃった文化協会ですね、昨年僕もお邪魔したんですけれども、皆さん恐らく鷹狩りなんていうのはふだん接する機会がないと思うのです。宮内庁から鷹狩りの鷹匠が見えまして、実際に等々力でやりました。そしたら、鷹を飛ばすと、あそこにいるカラスが自分の領域を荒らされたというので鷹に襲いかかるんですけれども、やっぱり鷹はすごいですね、ちゃんと帰ってきます。そういうことも、参加して現場で見ればわかるということですね。

だから、これから区民会議のあり方というのは、さっき言ったようになるべくみんなに

わかるようにと。

それから、商店街の問題を前回取り上げましたけれども、ご存じのラゾーナ現象ですか、この間もある方とお話したんですが、ラゾーナの入場予定者数1年分が1カ月とか2カ月でクリアしたという話。ということは、尾澤委員が言うようにこれは光の当たる部分で、その反動が起きているわけです。まず、東口の商店街に出て、今はかなり中原区の商店街にも影響が出てきているんですか。

尾澤委員 私もよく出かけていくことがあるんですけども、中原区内で見かける方がかなり……。あちらもあいさつするのに困るんじゃないかと思うような……。

藤枝副委員長 だから、それが今度、小杉の問題、再開発で当然商業ゾーンができますと、もっとダイレクトに中原区の商店街に直接的な影響が出てくることも考えられるので、そのためにここにいる吉房さんとか竹井さんなんかと今NPOをつくりまして、旧住民ともうまくいくようにと……。

今月、NPOのあれを記念して、ヤシオツツジを17日に取りに行きまして、区役所の方に18日に持ってきます。鈴木さんなんかも行かれるんですか。よろしく願いいたします。そして、認証がもうお済みして、それを記念してこの3月31日1時から区役所でその式典があるので、ぜひ皆さん参加していただけたらと思います。そのうち掲示板で回すようにします。3月31日1時です。ぜひそのときにいらしてください。

ということで、この区民会議もほかの区の区民会議の話もいろいろ聞きますけれども、身びいきではないですけれども中原区の区民会議は木場田区長のおかげでダントツに素晴らしい区民会議であることは事実なんです。いろいろほかの話も聞くわけです。だから、中原区の区民会議では皆さん堂々と意見を出し、これからなお一層素晴らしい区民会議になるよう、さっき言ったようにみんなにわかる区民会議にしていきたいなと思いますので、よろしくご協力をお願いいたします。

横川委員長 貴重なご意見をありがとうございました。ほかの区では議長さんが大分やり込められて涙ぐむというところもありましたけれども、私は全然そんなことはございませんから。どうぞやり込めてくださいませ。本当にご協力を得まして、時間も参りましたので、報告書について事務局にご説明をお願いいたします。

事務局 それでは報告書についてご説明をしたいと思います。

この報告書でございますが、会議において調査、審議した結果は、年度の最後の会議終了後、速やかに市長及び区長あて報告するものとするということで、中原区区民会議要綱の第2条第2項の規定に基づいて策定するものでございます。18年度の報告書はまだ任期の途中、1年目ということでございまして、お手元でございます中間報告的な位置づけになろうかと思ひまして、それは会議での議論とか委員の皆様にご協力いただいたアンケート、本日の議論等も踏まえてまとめたものでございます。

報告書でございますが、簡単に構成についてご説明いたします。まず、おめぐりいただ

きますと目次がございます。これは0章から6章までの7章から成ってございまして、0章のところは区民会議を通した課題解決の流れをお示したものでございます。第1章から第3章までは、先ほどご説明しましたとおりに会議で検討いたしましたテーマごとに報告、意見、提案、あるいは活動の広がりをもとめたものでございまして、4章、5章は、ただいまご議論いただいたようにそれぞれの1章から3章をもとめたものとなっております。第5章は、今ご議論いただきました区民会議をきっかけにした新たな広がりということで、議題から離れた委員さん同士の交流等、広がり、取り組みなどについて掲げたものでございます。以上でございます。

横川委員長 ありがとうございます。ご説明は以上のおりでございますが、あとお一人ぐらいいかがでしょう。言いそびれた、また後ほどといってもなかなか大変でございますが。

尾澤委員 一言……。私ばかりお話しして申しわけないんですけども、初めてが続くんですが、商業会を取り上げていただきまして本当にありがとうございます。その中で、前回いただいた資料の中ですが、きのう実は区民会議のことについて事務局の方から冒頭ご説明をしていただいて、それからプレーメンとオズ通りの映像を見ていただきまして、それからいろいろ話をしたんですけども、私どもが大変うれしく思いましたのは、この中に、商店街が活性化することによって、そこに住んでいる人たちにとっても暮らしやすいまちになるとお書きいただいている部分です。それから勇気づけられたのは、市や国からお願いしたり法制化したりして、コンビニなどの大企業が組合に入るようにしてほしいと、そういうようなことが載っていました。商店街としては非常にありがたいバックアップで、それから、中にお褒めいただいたのが、赤ちゃんを背負いながら買い物をしたときにお店の人に声をかけてもらってとても温かい気持ちになりました、と。そういうお褒めのお言葉もいただきました。

この会が私ども商店街にこれからの勇気を持たせていただけたということで、私を初めきのう出席した商連の役員が大変喜んでおりまして、心からお礼申し上げます。

それから、もう一つなんですけど、4月1日に丸子と小杉の桜まつりがありますけれども、4月1日だからといってエイプリルフールではありません。必ずやりますから。丸子の方でも、二ヶ領用水の自治会館のところでもどうぞ。自治会館の方は31回目になりますから伝統のある行事なんですけれども、どうか皆さんにお運びいただいて、商店街が一生懸命頑張っている姿、それからこれからも励ましの言葉もひとつおかけいただいて、皆さんが顔を見せていただくことが勇気をいただくことになろうかと思っております。私は心からこの行事が成功するように念じておりますので、皆さんにもどうぞよろしくお運びいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

横川委員長 ありがとうございます。本当に尾澤委員のようなお心がけで商店のご主人たちがおられると必ずお客様が見えますから、それをお伝えしてくださいませね。ありが

とう存じました。

ほかによろしゅうございますでしょうか。

最初に申しあげましたように、本日議論をたくさんいただきました。これを踏まえて報告書を作成したいと思っております。なお、市長様並びに区長様へ年度内に報告しなければなりませんので、時間が限られておりますので最終的な取りまとめは運営部会に一任していただきたいなと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

それでは異議がなければ、運営部会に一任したいと思っております。

5 閉会

横川委員長 以上で、本日予定しておりました議事はすべて終了いたしました。区長様から一言お願いいたします。

区長 本日は長時間にわたり大変ありがとうございました。これで今年度予定しておりました4回の区民会議を無事に終了することができました。あとは報告書を取りまとめていただいてご提出していただくということのみでございます。

1年間やって、改めて振り返ってみて、かつ討議したことがどのように地域の中で広がっているのかなということについて、どうなんだろうかというふうに思っておりました。それで、皆様にアンケートをお願いしましたところ、さすがに皆様はいわばいろいろな分野の代表者として地域の中で幅広く活動されている皆さんですので、今日も一部ご紹介しましたが、確実にここで取り上げたテーマを地域の中で何とか広げていきたいという皆さんの思いが実によくあらわれておりました。本当に一例でございますが、先ほどご報告のあった中にも三竹さんのご報告では、地域の商店街にこの間の区民会議のことをお話をしたということでした。お話しされてもそれがすぐ取り組みになってあらわれるということは、特に商店街についてはなかなか難しいことではないかと思うんですが、本当にうまく熱意を持ってお伝えいただいたのだらうと思います。早速、空き部屋といいます、そこを使って小学生の版画を展示していただいているというようなことを聞いても、皆様が地域の中で取り上げたテーマをそのままにしないで、何とか地域の中で広げていきたいという思いで取り組みが広がっているなど改めて実感いたしました。

こういう個々の取り組みは、今、三竹さんの事例を紹介しましたが、例えば行政がこういうことをやっていくんだといっても、何年かかってやっと1つできるか2つできるかということではないかと思うのです。それを一区民会議の委員が本当に熱心に地元の商店街に伝えていただいて、そういうことが実現できたということは、本当に区民会議が派手ではないかもしれませんが確実に皆さんの努力によって地域に広がっているなどということを実感いたしました。

ただ、藤枝副委員長からありましたけれども、区民会議はまだまだそんなに認知度が高くありませんので、これを広めていくこともぜひやっていきたいなと思います。しかし、

各分野で活躍しておられる区民会議の委員の皆様方がそれぞれの分野別の委員会だとかあるいは地域の中で活動していただくというのが、この区民会議の特色でもございますので、ご尽力を賜ればというふうに思います。

来年度また引き続いて皆様をお願いすることになります。今後どういうテーマを掲げてやっていくか、運営部会を中心に検討して、新しい年度に向けてスタートできればいいかなと思います。とりあえず今年度、皆様、本当にありがとうございました。（拍手）

横川委員長 区長様、ありがとうございました。議員の方たちにはきょうはお声をかける時間もございませんでしたけれども、よろしゅうございますでしょうか。本当にお顔をただただ心強い感じがしております。お体に気をつけてますます目的に向かって頑張ってくださいませ。

ほかに委員の皆様、または事務局から何かご連絡がございますでしょうか。

事務局 実は前回の区民会議の中でアメフトのことをご報告したかと思うんですけども、その際、チケットをどこで買ったらいいかというようなことが宿題になってございました。その結果というか、宣伝になりますけれども、7月は等々力川崎球場でアメフトのワールドカップが開催されるということでございまして、そのチケットなんですけど、例えばローソンとかセブンイレブンとかサークルK、ファミリーマートなどの、いわゆるコンビニエンスストアなどでお買い求めいただくことができるということでございます。ぜひお買い求めいただきまして、当日は熱い戦いを見ていただければと思います。よろしくお願いいたします。以上でございます。

横川委員長 ありがとうございます。そのことについて大分ご質問を受けておりましたので、大変よかつと思います。

ほかに特にならなければ、区長様初め皆様に大変ご協力を得まして、円滑に、そして大変密度の高い有意義な会議がきょうは持てたのではないかと思います。

副委員長の藤枝様、竹井様ともどもご協力を得まして、無事にきょうの第4回を終了することができました。この次またお目にかかる時は元気で、より一層の回転をよくして皆様とお目にかかりたいと思います。

本日は本当にご協力ありがとうございました。以上をもちまして終わりにいたします。（拍手）

午後4時08分 閉 会